



## Terry Fox a Canadian Hero Catrina Caira

Terrance “Terry” Stanley Fox is a very famous Canadian. He was born on July 28th, 1958. He died on June 28th, 1981; he was only 22 years old. However, events are now held in 60 different countries around the world to remember him, why?

Terry loved to run. He was a marathon runner and basketball player in high school. In 1977 he got cancer. The doctors cut off his leg to save his life. But he kept running and played wheel chair basketball. He helped his team win 3 national championships. He also won many other awards.

In 1980 Terry Fox started his “Marathon of Hope”. He wanted to run across Canada to tell people about cancer and to get money for cancer research. He wanted one dollar from every Canadian (about 24 million people in 1980). It was a big goal. He started his run in the city of St. John’s, in the east of Canada. He ran a full marathon everyday on an artificial leg. He ran 5,373 km in 143 days. He talked to many people. Many people wanted to help him. But then disaster struck.

His cancer returned. He had to stop his run in the city of Thunder Bay. He died of cancer nine months later. Many people remember Terry. They run to raise money for cancer research every year. People run around the world. There is even a Terry Fox run in Sapporo. The Terry Fox Foundation has raised 750 million dollars for cancer research.

Many people think Terry Fox is Canada’s greatest hero. They want to be like him; to never give up no matter what. He truly is a great example for all of us.

### カナダのヒーロー、テリー・フォックス カトリーナ・カイラ

テレンス(テリー)スタンレイ・フォックスはとても有名なカナダ人です。1958年7月28日に生まれ、1981年6月28日に亡くなりました。わずか22歳でした。でも、今や60カ国で追悼イベントが行われます。なぜか。

走ることが大好きだったテリーは、高校ではマラソンとバスケットボールをしていました。しかし1977年、がんを発病。命を救うために脚を切断しました。それでもテリーは義足で走り続け、車いすバスケットボールをしました。3回の全国優勝に貢献し、多くの賞も受賞しました。

1980年、彼は「希望のマラソン」をスタート。カナダを横断して、広く病気のことを訴えました。がん研究の費用を集めるのが目的でした。「一人1ドルの寄付」という大きな目標を持ち、(当時の人

口約2,400万人)カナダの東、セイント・ジョーンズ市を出発し、毎日義足でフルマラソン。走行距離は143日間で5,373キロメートル。多くの人に語りかけました。賛同する人が増えたその矢先、再び病魔が襲いました。

再発です。サンダー湾市で走り中断せざるをえなくなったテリーは、9カ月後に亡くなりました。多くの人が彼を忘れず、毎年世界中で基金のために走ります。札幌でもテリー・フォックス・ランを行います。テリー・フォックス財団はがん研究に7億5千万円を集めました。

彼をカナダの最も偉大なヒーローだと考え、何があろうと決して諦めない彼のようにになりたい、と思う人はたくさんいます。テリーは本当に素晴らしい手本です。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第152回

## AI vs 教科書が読めない子どもたち

数学者の新井紀子さんの著書です。とにかくみなさんにも読んでほしい。銀行など金融機関では、AIで大量リストラがもう起きていますが、そんな中、著者は人間が生き残る方法を模索してきた人です。面白いのはAIの特性を調べるためにロボット「東ロボくん」で東大を目指す実験をしたこと。数式の大量入力で、有名私立合格レベルまでになりました。でも東ロボくんは、英語は苦手。150億センテンスの英文を入力して

も、正答率が上がらない。例えば「私は先週、山口と広島に行った」が理解できない。「山口君」か「山口県」かを読み取れないから。

そこで著者は、「人間は計算力ではロボットに敵わないこと。むしろ作業マニュアルや安全マニュアルを読みこなして、ロボットに指示を与える立場になるべきだ」と考えました。そう、「読解力」です。教科書を使った「リーディングテスト」を作って子ども達に受けさせました。

結果にびっくり。なんと子どもたちは「問題が解けない」どころか、教科書自体を読み取れていなかったのです。このことにショックを受けたある町では、読解力を高める教育に取り組みました。結果は？ 文章を理解できるようになって飛躍的に学力が向上したそうです。

「英会話」「アクティブ・ラーニング」「プログラミング」をやるよりも、「じっくり座って教科書を読み取る力を付けること」が生き残ることにつながる、という著者の考えに深く共感します。